小学校統合の時期と枠組みの再考を
選択肢から排除するものではない



菊地広隆
（創政会）

議員　令和8年度の市立小学校新1年生は、推計129人に対し実数112人で、17人下回った。釜石小学校は令和9年度に複式学級が生じる見込みだが、双葉小学校との統合目標は令和13年度である。統合時期を前倒しすべきではないか。

教育部長　7月の保護者アンケートでは、計画どおりを望む回答が45件、早期統合が19件であった。直ちに前倒しを決定する段階にはないが、選択肢から排除するものではない。

議員　小佐野小学校も推計23人に対し17人と、市内で最も大きく下回った。2校を統合した後に再び統合となれば、負担を負うのは子どもである。3校を一体的に捉えた再編を検討する考えはあるか。

教育部長　3校はいずれも釜石中学校区にあり、一体的に学校規模と配置を検討する意義はある。短期間に再度の統合が必要とならないかを重要な判断要素とし、結論ありきではなく検討する。

議員　3校を一体で検討するのであれば、保護者の意向も3校を対象に確認すべきではないか。

教育部長　次回以降のアンケートは、3校を対象に実施する方向で教育委員会内の調整を進めたい。



学校規模適正化の議論が進む
小佐野小学校

和山地区を含む畜産業の見通しは
数年の間に畜産業は活発化していく



古川愛明
（創政会）

議員　和山地区ではユーラスエナジーによる風力発電の建替事業が行われているが、その進捗状況を伺う。

市長　ユーラス釜石広域ウインドファームは、発電規模を1000キロワットから4200キロワットに拡大し、風車の設置数を43基から11基に建替する更新事業で、本年3月から商業運転を開始している。和山地区を中心に同規模の風車を新たに25基設置する拡張事業が計画されており、令和12年4月に着工し、令和16年4月から商業運転を開始する予定である。

議員　和山牧場、鶏肉生産加工販売業を含む釜石市全体の畜産業の状況を伺う。

市長　一関市の株式会社オヤマの参入により、令和6年から栗林町に市内初の養鶏農場「リアスファーム」が稼働し、年間100万羽規模の肉養鶏の生産を行っている。本年6月に和山地区に市内2カ所目となる和山ファームの第1期工事完成竣工式が行われ、リアスファームと同規模の肉養鶏の生産を目指している。また、福島県二本松市の有限会社エム牧場が、和山牧場を利用した肥育牛の放牧事業に参入し、本年7月には、市と同社との間で地域活性化等に向けた連携協定を締結したところである。橋野町の和山地区を中心として、ここ数年の間に畜産業の展開が活発化していくと捉えている。



活発化する和山牧場